

平成28年度事業報告書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

学校法人 上宮学園

I. 法人の概要

1. 建学の精神

本学園の建学の精神は法然上人の理想を実現することであり、したがってその指導原理は上人の仏教精神にあることは言を俟たない。学園に関係するものは当然その本源を尋ねてひとえに法然上人に依るべきで、本学園が法然上人を学校祖と仰ぐゆえんである。学園の歴史はわずか120年であるが、その120年に至るまでの歴史は遥かに長いのである。

法然上人の理想とするところは校歌『月影』にこめられている。

「月影の いたらぬ里は なけれども 眺むる人の 心にぞ 澄む」

これは校祖法然上人の御作で、仏様の慈愛について述べておられるものである。仏の慈愛はさながら月光に似て、人の世のすみずみまでを照らす。しかしながら、月明かりを良いものだと感じ取ることのできる人にだけ月光の良さがわかるように、ああこれが仏の慈愛なのだ、と感じ取ることのできる人にだけ、慈悲の心は通じる。仏恩とはそのようなもの、と説いておられる。本学園ではこの月影の歌を校歌にしており、卒業生は校名一つないこの歌を校歌としている母校に、限りない母校愛と誇りを感じ巢立つのである。

この精神を具現化するために定められたものが、校訓であり、学順である。

校訓「正思明行」～正しく考え、明るく行動する～

何気ない言葉のようですが、邪悪なことを考えていて、立派なことがやれるわけがない。小さなことにくよくよして、大事業が達成できるわけがない。要は心のもちかた。他者が見て、この人にはついて行けると思われるような人物は、いつも考えていることが清く正しく、その言動もおのずと清明で、正々堂々としているものです。生徒諸君にそういう立派な人物になれという校祖の思いが、この四文字に込められている。

また上宮には昔から「学順」と呼ぶ教訓が存在する。

「一に掃除、二に勤行、三に学問」。この「掃除」はしばしば誤解されるのであるが、仏道ではもつと哲学的な意味をもち、俗世を浄土のごとく掃き清め、もって俗念を断つ。『往生要集』にもある、穢土を厭い浄土を求め、その心がけが第一で、つぎに己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずから身に備わり、その真価を発揮するという意味です。

以上のことはいずれも仏の叡智に根ざすものである。現代のようなコンピュータ万能の時代でも、いや、むしろ、このようなブラック・ボックスの伴うテクノロジーが人智を凌駕する時代に生きるからこそ、この叡智は大事なのである。いたずらに俗世の成功を求めず、人間ほんらいの生き方と「知の真価」を求める。上宮学園では法然上人のこの人道と仏の慈愛を多くの若者に分け与えて、120年の伝統を経てもなお脈々と受け継がれている。

2. 法人の沿革

上宮高等学校は、明治23年(1890)浄土宗を母胎として創立された。以来120年以上の長い歴史を刻み、幾多の卒業生を送り出してきた。大阪で最も古い学校のひとつとして、永い歴史の中で培われてきた伝統を大切に、きめの細かい教育を推進している。

明治23年(1890年)大阪大教会支校を生玉大宝寺に開く

明治34年(1901年)学制変更により修業年限4年を5年に変更

明治39年(1906年)中学校と同等の認定

明治45年(1912年)財団法人上宮中学校設立許可

昭和4年(1929年)鉄筋本館竣工

昭和10年(1935年)定員1250名認可 鉄筋新校舎の建設案成る

昭和14年(1939年)新校舎(現2・3・4号館)竣工

昭和22年(1947年)新制上宮中学校発足

昭和23年(1948年)新制上宮高等学校発足

昭和26年(1951年)学校法人上宮学園へ組織変更認可

昭和36年(1961年)校祖750年遠忌式

昭和38年(1963年)高等学校志願者5259名に達す 5号館竣工

昭和42年(1967年)中学校の募集停止 太子町鉄骨校舎着工

昭和44年(1969年)太子町校舎高1授業開始

昭和49年(1974年)高2 2コース制実施

昭和54年(1979年)太子町鉄筋校舎ならびに合宿所竣工式

昭和56年(1981年)総合体育館竣工式 90周年記念式

昭和59年(1984年)上宮高等学校6号館竣工

昭和60年(1985年)上宮中学校復活開校(於、太子町)

上宮中学校体育館竣工、太子町学舎体育館竣工

昭和63年(1988年)上宮高等学校太子町学舎開設

平成1年(1989年)上宮高等学校太子町学舎校舎竣工

平成2年(1990年)創立100周年記念式典

平成3年(1991年)上宮高等学校太子町学舎が上宮太子高等学校として独立

平成5年(1993年)上宮中学校が上宮太子中学校へ変更

上宮中学校開校(於、天王寺)

上宮高等学校硬式野球部選抜野球大会初優勝

平成22年(2010年)上宮学園創立120周年記念式典

平成23年(2011年)校祖800年大遠忌

上宮中学校・高等学校、上宮太子中学校男女共学化

平成24年(2012年)上宮太子高等学校男女共学化

平成26年(2014年)上宮高等学校3年 平岡卓

冬季オリンピックスノーボードハーフパイプ銅メダル受賞式典

3. 設置学校（所在地・コース等）

- i 上宮高等学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町3番16号
全日制 普通科 パワーコース・英数コース・プレップコース
- ii 上宮太子高等学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053
全日制 普通科 3カ年特進コース・3カ年総合進学コース
- iii 上宮中学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町3番16号
特進コース・アップコース
- iv 上宮太子中学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053
特進コース・総合進学コース

4. 校地・校舎面積

名 称	校地面積 m ²	校舎面積 m ²
上宮中学校・高等学校	47,934	22,906
上宮太子中学校・高等学校	30,338	12,436
合 計	78,272	35,342

5. 入学定員

名 称	学則定員（各3学年合計）
上宮高等学校	2,520
上宮太子高等学校	840
上宮中学校	480
上宮太子中学校	240
合 計	4,080

6. 生徒数・学級数

名 称	学年	生徒数	学級数
上宮高等学校	1 年	689	17
	2 年	689	20
	3 年	676	20
上宮太子高等学校	1 年	193	5
	2 年	241	6
	3 年	245	7
上宮中学校	1 年	86	3
	2 年	110	3
	3 年	106	3
上宮太子中学校	1 年	24	1
	2 年	33	2
	3 年	50	2
合計		3,142	89

7. 役員・評議員 平成28年4月1日現在

i 役員（定員 理事：7名、監事：2名）

理事6名（うち、理事長1名、理事5名） 監事2名

理事長 安井良道

理事 田中裕史（上宮中学校高等学校長）

齊藤善之（上宮太子中学校高等学校長）

末吉友一（評議員互選）

田中信道（浄土宗僧侶）

鶴野重雄（浄土宗・知恩院責任役員）

監事 藤並光憲・小笹憲雄

ii 評議員（定員15名）

評議員15名（うち、理事兼任7名）

末吉友一（学識経験者） 神田眞晃（浄土宗僧侶） 川中光教（浄土宗僧侶）

水谷川源昇（学識経験者） 横倉廉幸（卒業生） 山縣真平（法人職員）

寺澤久弥（学識経験者） 松井保（法人職員） 原田和成（法人職員）

8. 教職員

教職員数	専任教員	常勤講師	非常勤講師	事務職員	合計
上宮高	79	16	57	26	178
上宮太子高	23	13	26	7	69
上宮中	16	4	7	1	28
上宮太子中	9	5	2	3	19
合計	127	38	92	37	294

Ⅱ. 事業の概要

平成28年7月より田中裕史理事長・学園長が就任し、学園の発展向上のために、安井良道前理事長・学園長の意思を継承し、「三本の柱」を掲げる。

一は教育力の向上。本学園の建学の精神である「正思明行」を礎として学力だけでなく、幅広い知識と教養をもち、自ら努力できる人物を育成し、またさらに、共生の精神と自立できる力を養い、世界的に活躍できる人物を育成する。教授法の改善を推進し、より質の高い教育を実践、学校満足度の向上をはかる。

二は健全な財政の構築。創立120有余年の歴史と伝統を基盤として、さらなる社会的信頼獲得のための運営をすすめ、確固たる学園ブランドを確立する。平成32年、創立130周年を迎えるにあたり、学園の整備計画の一つとして、上宮中学校・高等学校新校舎建設を決定、基本設計の段階に至る。そのための整備費等の財務計画を策定し、強固な財政基盤を確立する。

三は民主的な運営。競争力を持った教育環境の整備と社会変化に対応できる組織力の確立を目指す。理事長・校長の指導の下、教職員の意見を取り入れながら、各部署が連携して学校運営に取り組む。また、保護者会・同窓会・教育後援会等と学園とが連携し、社会に貢献できる事業を企画し推進する。

以上、基本精神「三本の柱」を中心に、学園の維持・発展のための事業運営に今後に向けても邁進する次第である。

1. 法人

第1回 日時 平成28年5月26日(水) 午後1時30分～午後4時30分

会場 上宮学園法人理事室

議案第1号 平成27年度事業報告について

議案第2号 平成27年度決算(案)について

議案第3号 平成28年度予算(案)について

議案第4号 その他について

臨時 日時 平成28年7月22日(水) 午後1時～午後3時

会場 上宮学園法人理事室

議案第1号 安井良道理事長・学園長の辞任(死亡)による補欠専任について

議案第2号 安井良道理事長・学園長の学園葬について

議案第3号 新校舎建設に係る設計業者選定について

第2回 日時 平成28年9月28日(水) 午前11時～午後0時30分

会場 上宮学園法人理事室

議案第1号 新校舎建設に係る設計業者選定について

議案第2号 上宮中学校・高等学校校長選任について

第3回 日時 平成28年12月22日(木) 午後3時～午後5時

会場 上宮中学校高等学校 北応接室

議案第1号 新校舎建設委員会報告について

議案第2号 平成28年度中間報告(財務面・教務面)について

議案第3号 その他について

第4回 日時 平成29年3月10日(金) 午後1時～午後3時30分

会場 上宮学園法人理事室

議案第1号 上宮中学校・上宮太子中学校の今後のあり方について

第5回 日時 平成29年3月28日(火) 午後2時～午後4時30分

会場 上宮学園法人理事室

議案第1号 平成28年度補正予算案について

議案第2号 平成29年度事業計画について

議案第3号 平成29年度予算原案について

議案第4号 上宮中学校高等学校・上宮太子中学校高等学校の近況報告について

議案第5号 その他について

2. 上宮高等学校

i 執行部関係【上宮中学共】(平成 28 年度)

校長	田中裕史	高校教頭	山縣真平
中高一貫教頭	殿井鉄夫	高校教務部長	栗栖有文
中学教務部長	末金和夫	生活指導部長	福井 篤
進路指導部長	畑中 広	入試対策部長	相本秀彦

ii 広報関係

① 学校説明会

入学希望者を対象に9月から12月にかけて、月に一度、計4回の説明会を実施している。参加者数は、昨年度は前年比約マイナス200組となっている。説明会のあり方について考えなければならない時期に来ている。問題点もいくつか考えられるので、次に述べてみる。

○説明会の時間設定

土曜日の午後3時から5時という時間をできれば午後2時から4時に実施したい。中途半端な午後3時からの説明会の実施はあくまでもこちらの都合である。また説明内容も1時間が妥当である。他校の説明会と比べれば明らかに長い。

○相談コーナー

担当者は保護者が来られてから準備をするのではなく、あらかじめブースに着席して対応していただきたい。ブースがあるにもかかわらず、担当者がいないことがよくある。

○今後について

生徒が前面に出るような説明会も考えていってもいいのではないだろうか。

② 塾対象説明会

ここ数年はシェラトン都ホテル大阪で7月第2金曜日に一度だけ実施している。今年度は、実際に塾の先生方が、進路指導を始める9月（夏休み後の五ツ木模試・駿々堂模試の結果が出る）に変更した。懇親会は実施せず、説明会終了後に個別相談コーナーを設けて対応している。説明会の時間が少し長いという声があり、調整に苦慮している。今年度の様子を見て、次年度以降の説明会の時期を考えなければならない。

③ 私学展

毎年多数の来場者が見込まれる中で、上宮中学校・高等学校のブースを訪れる人数は共学になって増加の一途をたどっている。説明のブースに来て、一通りの話を一人ひとりにしていくのはロスが多いので、昨今は別会場にて上宮の概略を聞いてから、希望者はブースに来てもらうという方式を取っている。比較的スムーズに対応できるようになったと思う。ただ毎年、開催時期が夏のお盆（今年度も8月13・14日）であり、スタッフが揃わないことで常に困っている。今年度は、8月19日・20日なので、学校から応援要請をしていただければ、他校のように20人～30人体制で臨めるのではないかと思う。

④ 特筆すべき点

高校入試も決して楽観視できない状況である。共学とアクセスと制服とに助けられて集まっているといっても過言ではない。専願者の減少傾向（特にパワー、英数）、大阪府の就学支援が今後どうなるかわからないことを考え、広報のあり方を再度、検討しなければならない。

Ⅲ. 進路関係

1. 大学等進学状況の概況

平成 28 年度卒業生（共学 4 期生）は 673 名（昨年度 703 名）。学年全体の現役合格率（大学・短期大学・専門学校）は 89.9%（昨年 91.2%、一昨年 87.2%）と昨年に次いで高い割合となった。現役進学志向は全国的にも高い傾向にあり、本校においても同様である。

【平成 28 年度卒業生の進学等状況】

卒業生	4 年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
673	553	9	23	3	85
割合	82.2%	1.3%	3.4%	0.4%	12.6%

*「就職者」は公務員系 3 名（大阪府警察行政・大阪国税局・航空自衛官）

*「その他」は進学準備・留学準備等

2. 大学別合格者について

平成 28 年度は、国公立大学合格者が昨年度を 6 名上回った。また、私立大学では、「関関同立」「産近甲龍」の合計合格者数がともに昨年度を上回った。とりわけ、「関西大学」の合格者が昨年より 16 名増と躍進したほか、「同志社大学」も 5 名増、「甲南大学」も 9 名増と健闘した。

1) 国公立大学合格者 33 名（昨年度 27 名）

*国公立大学合格者人数は全て「現役・過年度生を合わせた大学別実人数」である

①国立大 22 名（現役 15 過年度 7）大阪大学 2 名 大阪教育大 4 名 和歌山大 5 名 等

②公立大 11 名（現役 7 過年度 4）大阪市立大 4 名 大阪府立大 3 名 等

【平成 28 年度と平成 27 年度の国公立大学合格状況 比較】

*現役・過年度生を合わせた大学別合格者実人数

国公立大学					
H28 年度			H27 年度		
順位	大学名	人数	順位	大学名	人数
1	和歌山大	5 人	1	大阪府立大	5 人
2	大阪教育大	4	2	和歌山大	3
	大阪市立大	4	3	大阪教育大	2
4	大阪府立大	3		高知大	2
5	大阪大	2		滋賀県立大	2
6	京都教育大	1		兵庫県立大	2
	広島大	1	7	東京外国語大	1
	岡山大	1		神戸大	1
	兵庫県立大	1		広島大	1
	京都工繊大 等	1		神戸市看護大 等	1
	合計実人数	33		合計実人数	27
国公立型クラス人数		133	国公立型クラス人数		123

2) 私立4年制大学合格者 881名 (現役775 過年度106)

* (昨年度882名 現役757 過年度125)

【平成28年度と平成27年度の私立大学合格者 Best20 比較】

* 現役生のみの大学別合格者実人数

私立大学					
H28年度			H27年度		
卒業生数 673名			卒業生数 703名		
1	近畿大	95人	1	近畿大	92人
2	関西大	71	2	摂南大	62
3	摂南大	54	3	関西大	55
4	龍谷大	44	4	龍谷大	46
5	大阪経済大	30	5	桃山学院大	28
6	甲南大	25	6	大阪経済大	23
	桃山学院大	25		関西外国語大	23
8	同志社大	22		追手門学院	23
9	大阪工大	19	9	京都産業大	20
10	大阪大谷大	17	10	佛教大	19
	帝塚山大学	17	11	同志社大	17
12	立命館大	16	12	甲南大	16
	追手門学院大	16	13	関西学院大	15
14	甲南女子大	15	14	畿央大	14
	武庫川女子大	15		大阪産業大	14
16	京都産業大	14		武庫川女子大	14
17	関西学院大	13		立命館大	14
	阪南大	13	18	甲南女子大	13
19	神戸女学院大	12	19	四天王寺大	12
	佛教大	12	20	大阪工業大	11
	合計実人数	775		合計実人数	757

2	関西大	71	3	関西大	55
17	関西学院大	13	13	関西学院大	15
8	同志社大	22	11	同志社大	17
12	立命館大	16	14	立命館大	14
	合計実人数	122		合計実人数	101
	卒業生数に対する%	18.1		卒業生数に対する%	14.4

16	京都産業大	14	9	京都産業大	20
1	近畿大	95	1	近畿大	92
6	甲南大	25	12	甲南大	16
4	龍谷大	44	4	龍谷大	46
合計実人数		178	合計実人数		174
卒業生数に対する%		26.4	卒業生数に対する%		24.8

3) 私立短期大学合格者 16名 (現役 16 過年度 0)

* (昨年度 19名 現役 19 過年度 0)

私立短期大学					
H28 年度			H27 年度		
1	武庫川女子短大	3	1	関西外大短大	9
2	白鳳短大	3	2	武庫川女子短大	4
3	京都外語短大	2	3	藍野大短大	2
4	関西外大短大	2	4	白鳳短大	1
	藍野大短大	2		龍谷大短大	1
				大阪女学院短大	1
				四天王寺短大	
	合計実人数	16		合計実人数	19

4) 専門学校合格者 37名 (現役 35 過年度 2)

* (昨年度 51名 現役 48 過年度 3)

専門学校					
H28 年度			H27 年度		
1	大阪病院付属看護	2	1	大阪医療付属看護	4
2	大阪医療付属看護	1	2	大阪府医師会看護	3
	大阪南医療付属看護	1		大阪警察病院看護	3
	大阪赤十字看護	1	4	大阪南医療付属看護	1
	大阪警察病院看護	1		大阪赤十字看護	1
	大阪府医師会看護	1		大阪病院協会看護	1
	京都府立看護	1		近畿大学附属看護	1
	近畿大学附属看護	1		大阪済生中津看護	1
	大阪済生中津看護	1		大阪行岡医長柄	1
	大阪済生野江看護	1			
	関西看護	1			
	その他専門学校	23		その他専門学校	32
	合計実人数	35		合計実人数	51

* 上記の看護専門学校はベネッセのコードが割り当てられている学校に限られます。
よってその他専門学校にも看護専門学校が含まれます。

3. 進学に関するその他の取り組み

- 1) 大学合格講座（高3生対象）・大学合格準備講座（高2生対象）の運営。

平成26年6月からスタートして3年目となった。平成28年度1月から「生徒の出欠管理システム」を導入。欠席生徒への教材配布と次回の講座の連絡プリント配布を確実にしている。

- 2) 文科省の大学入試改革における「大学入試における英語外部検定試験の導入」に対応する形で、「英語検定試験」受験者を増やすべく、平成27年4月から開講している「英検対策講座」の受講資格を中学1年生から引き下げた。
- 3) 文科省の大学入試改革における「英語4技能」（読む・書く・聴く・話す）学習の推進に対応するべく、「聴く・話す」能力の育成に関わる「英会話講座」を新しい形で導入するべく検討を始めた。「ネイティブによる修学旅行英会話講座」の受講者数が伸び悩んでおり、新たにWEB英会話学習の導入の検討を始めた。
- 4) 毎年夏期休暇中に「夏期講座（有料）」を実施。平成28年度は前期4日間、後期4日間とし（昨年度は各5日間）、1コマ60分で午後にも1限を設定し、毎日4時限の時間枠（昨年は午前中の3時限で終了）で実施した。
平成28年度は特に中学生対象の講座の充実を図った。英語・国語・数学・理科・社会科で6講座が成立し、中学生61人（20.2%）が参加した。また、高校では全体で601人（29.3%）が参加しており、例年多くの生徒が参加する大きな学習行事として定着している。
- 5) 進路指導室前の大学資料コーナーを拡張した。新たに「国公立大学資料コーナー」を設けたほか、「関関同立」「近大・龍谷」の資料を充実させた。
- 6) 進路指導室前にデスクトップPC2台を設置した。午前8時30分～午後6時までで生徒が自由に使えるようにタイマー設定をしている。トップ画面に日本都道府県地図をデザインし、2クリックで目的の大学HPにリンクするように設定した。

4. 「アクティブラーニング」研究について

平成27年度から進路指導部を中心に研究を開始し、平成28年3月に本校卒業生である羽根拓也氏（株式会社アクティブラーニング代表）を招いて第1回教職員研修を実施した。その後、同社と包括的契約を締結した。主な内容は以下の通り。

- 1) アクティブラーニング指導についての「全体的マネジメント」「本校管理職とのオンライン会議（年4回）」を実施。
- 2) 高2生徒の海外修学旅行の事前オリエンテーションを実施。
- 3) 教員全体研修（8月に第2回研修、平成29年3月に第3回研修を実施）。
- 4) 選抜教員（3名）個別指導を実施。

平成29年度4月から新しい分掌「ID」（インストラクショナル・デザイン：教育目標に対して学習者がどのような手順、環境、教材で学習すれば高い学習効果を生むかを企画する）が立ち上がり、これまで進路指導部が推進してきたアクティブラーニング研究は、この新分掌に引き継がれることになった。

IV 施設整備関係

本年度も建物内の補修・改修工事を中心に実施しました。新校舎建築に伴い残存校舎も確定しつつあるため、撤去予定の校舎棟等とは施工内容に差異を付け、残存校舎には費用を割いたものとなりました。本年も総合体育館を中心に改修工事を実施しました。

主な安全対策の工事としては、防犯カメラの増設工事を実施しました。

※主な工事

- 1－総合体育館アリーナ床改修工事
- 2－総合体育館南側駐車場付近への防犯カメラ設置工事
- 3－総合体育館西側外壁及び階段付近の塗装工事
- 4－2号館屋上防水工事
- 5－総合体育館プール機械室整備（機器等の取替を含む）

V 教務関係

1. 教学関係

内規改定による卒業・進級の厳格化

28年度より内規の見直しとして、定期考査の厳正さを担保するため、本校独自の考査における体調不良で考査開始後15分以内であれば欠試を選択できるといういわゆる15分ルールを廃止することを決定した。また、3年生で入試を意識するあまり、秋以降定期考査を軽視する傾向があったが、学年団の粘り強い指導の効果があつて、28年度においては、3年生の2学期における定期考査の欠試者がほぼ皆無となった。高校受験における受験生の相対的な学力上昇と学業に対する積極的な姿勢の入学生の増加と相まって、よりよい学風が形成されつつあると思う。

2. 受験対策

近年、他校でも取り組みが多い校内予備校への取り組みとして、3年生対象の大学合格講座を2学期から、2年生対象の大学合格準備講座を3学期から始めた。講師は本校勤務の講師の中で予備校との兼任の先生方と予備校の講師の先生方からなり、平日午後5時15分の終業後に2時限ずつの時間割配当で、有料講習をおこなうものであり、生徒保護からも大きな反響があり、実際の大学入試結果に好影響を与えたと考えられ、27年度からは対象を高2にまで広げている。また、土曜日には放課後に英検対策講座や修学旅行英会話講座も実施しておりさらに内容の充実を図っていくこととしている。

その成果の一例として、途中段階ではあるが、関西大学前期入試時点の結果として、実数で70名に及ぶ合格者を出した。内訳として、関西大学の連携指定校入試のパイロット校入試での合格者を一般入試での合格者が上回るという結果であり、同志社大学を始め他大学でも合格結果において数字を伸ばしている。

3. 語学研修

25年度までの状況は、高1・2年対象の夏休みのカナダ語学研修とイギリス語学研修の2種類がほぼ同時期に企画されていた。カナダ語学研修は3コースに分かれるが、1～2名程度がレジデンス（寮）での宿泊、その他大半の20名程度がホームステイで毎日教室に通学するもので、定員をオーバーするほど好評である。また、学校ではオープンといわれる各国の生徒と一緒にの教室での学習である。それに対してイギリス語学研修は全員レジデンス（寮）で、部屋も教室もオープンで様々な国の生徒と共同生活を行うもので、実際の参加者には好評であるが、希望者が少なく、25年度は実施中止となり、26年度からは募集停止となった。

イギリス語学研修に替わって、26年度新たに企画したのが、フィリピンのセブ島の日系語学学校に滞在する英語研修である。英語の学習とアクティビティや自由時間といったこれまでの語学研修と異なり、原則外出室禁止で午前中はマンツーマンでの英語特訓という特徴があり、英語力の強化に特化した研修である。生徒にとっては参加を決断するのにハードルが高く、参加者は2名に止まったが、帰国後の感想極めて好印象で、セブ島語学研修自体マスコミの報道が増えており、27年度は参加者が9名と増加した。28年度はこれまでよりも目的を明確化させるため、英検のステップアップを図るための語学研修という具体的な内容変更もおこない、6名が参加した。

夏休みのカナダ語学研修は、春先から連続して発生した海外のテロの影響で、申込者が少なく、また、海外への不安からキャンセルが連続し、中止となった。

28年度から初めての取り組みとして、入学先が決定した3年生対象に、大学入学前教育として、希望制の2月のカナダ・バンクーバーの語学学校短期留学を実施した。少数でも実施可能なように個人手配扱いとしたので、1名のみであったが参加し、よい成果を上げて帰国した。今後、高大接続の大学入学前教育として充実させる予定である。

春休みには、中3と高1対象にオーストラリア語学研修を実施している。全員がホームステイで滞在し、英語学習は本校生徒のみのクローズで行われている。アクティビティが充実しておりオーストラリアの大自然とふれあうプログラムで英語環境に親しむことを目的としている。

4. 修学旅行の変更

パワーコースのアメリカ勉強旅行とともに、その他のコースにおいては、13年間ドイツを中心とした修学旅行を実施してきたが、27年度、修学旅行中にルフトハンザ航空がストライキを起こし、大部分の隊で、旅程の変更を余儀なくさせられた。実際にヨーロッパに修学旅行を直行便で実施するためには、ルフトハンザ航空以外選択はなく、南回りで乗り継ぐとすれば、長時間を移動で費やすこととなる。

さらに、修学旅行中、パリでテロが発生し、ベルリンでは影響がなかったものの、留守家族が心配する状況があった。春先にブリュッセルのテロが発生したことで、校内にヨーロッパに対する不安感が強まった。

修学旅行を再検討し、旅行先の再検討の結果、オーストラリアのブリスベン、モートン島、ゴールドコースト、ボーデザートでのファームステイという新コースを設定し、1月に実施をした。11月から1月への時期変更は、使用したタイ国際航空との兼ね合いで座席確保のためだったが、曜日による不規則な運行スケジュールのため、長期化し、様々な問題があった。

外務省の学校関係者対象のテロ対策安全セミナーでの情報として、難民を受け入れたドイツ国内の状況はかなり不安定で、当分の間、ドイツへの修学旅行実施は避けるべきであるとのアドバイスを得た。

29年度、修学旅行実施に当たっては、28年度を見直ししながら、実施時期を11月に戻し、シンガポール航空とタイ国際航空を併用しながら実施する予定である。

5. 学校計画の策定

平成28年度学校計画を策定し、「建学の精神」「学校目標」「中期目標」「今年度目標」の項目に分け、上宮中学校・高等学校の学校方針を明確化した。この学校計画をもとに各学年・各分掌・各教科が自らの部門で必要とされる重点目標を策定して学校評価に結びつけ、さらに各教員は学校計画と学校評価に関連して個人目標シートに結びつけた。学校評価の充実には組織力の向上を、個人目標シートの充実には教育力の向上を目指した。

6. 教育プランの策定

平成28年度の教科の教育プランとコースの教育プランを策定し、各教科における教科指導上の目標達成と意思の疎通を図った。各コースにおいてはコースの特性を共通認識し、3年後および6年後の目標に向かつての指導を進める指標とした。

7. シラバスの策定

平成28年度の教科およびコースの教育プランをもとに、教科およびコースのシラバスを策定した。シラバスは生徒・保護者および外部に対して公表するものであり、上宮中学・高等学校の教育内容はホームページにあげて公開と広報を行った。

8. いじめ防止基本方針

いじめ対策委員会の設置は継続して行っている。

いじめ防止基本方針は、平成26年3月20日公布、4月1日施行であり、ホームページに記載している。

vii 課外活動関係

- ・卓球部 インターハイ・選抜大会 出場
- ・ソフトテニス インターハイ・選抜大会 優勝
- ・フェンシング インターハイ・選抜大会 出場
- ・囲碁部 全国高校囲碁選手権大会 団体準優勝
- ・水泳部 インターハイ 出場

3. 上宮太子高等学校

i 執行部関係

校長	齊藤 善之	教頭	寺澤 久弥
高校教務部長	淵 昭嘉	中学教務部長	佐々木裕司
生徒指導部長	米田 文昭	進路指導部長	漁野 篤史
入試対策部長	宮本 卓弥		

ii 広報関係

① 学校説明会

オープンキャンパス	9/17	参加者数	213名
第1回入試説明会	10/01	参加者数	35組 64名
第2回入試説明会	11/07	参加者数	160組 305名
第3回入試説明会	12/10	参加者数	199組 346名
直前対策入試説明会	12/18	参加者数	269組 550名

② 塾対象説明会 7/14・15 参加者数 153 塾 186名

③ 私学展（OMMビル） 8/15・16 参加者数 209名

④ 特筆すべき点

校内における説明会においては、昨年よりも参加人数は増加した。参加者の増加が受験者数増加につながった。説明会参加者数と受験者数には相関があるので、今後も説明会参加者数を増加させるため広報活動を強化していく。校内や校外における個別相談で対応した受験生の定着率はよい。今年度は大学入試結果も向上、野球部などのクラブの活躍など、よい話題が多く、上宮太子に興味をもった受験生が多かったと思われる。学校の魅力を効果的に伝える活動を継続していきたい。

iii 進路関係

【大学合格者数】

卒業者数が40名程増加したことに伴い、全体の合格者数も70名ほど増加した。
今年度のべ434名（卒業者数243名）、昨年度のべ371名（卒業者数205名）

○国公立大学

昨年度入試と比較して、現役生と過年度生を合わせた合格者数は半減した。

国公立大学合格者数：

今年度7名（現役6名・過年度1名）、昨年度13名（現役13名・過年度0名）

当初目標は現役11名以上であった。進研模試の結果からすると、やや高めの目標設定であった。現状を上回る成果をあげる体制を構築できなかった。

○私立大学（関西 8 私大）

昨年度入試と比較して、関関同立の合格者数は 10 名減少し、産近甲龍の合格者数は 17 名増加した。その結果、関西 8 私大合わせた合格者数は 7 名増加した。

昨年度に引き続き、今春の卒業生も公募推薦、一般入試に挑戦する生徒が多く、また、後期試験まで受験する傾向が強く出た。

関西 8 私大合格者数

今年度 94 名（関西 9 名・同志社 2 名・立命館 1 名・京産 15 名・近畿 34 名・甲南 11 名・龍谷 22 名）

昨年度 87 名（関西 16 名・関学 1 名・同志社 5 名・京産 2 名・近畿 46 名・甲南 3 名・龍谷 14 名）

○27 期生の進学状況（卒業者数 243 名）

4 年制（6 年制）大学進学者数…181 名 短期大学・短期大学部進学者数…14 名
専門学校進学者数…25 名 就職…1 名 進路未決定…22 名

（内訳：総合進学文系 8 名、総合進学理系 4 名、特進文系 5 名、特進理系 5 名）

現役合格率 94.5%（昨年度 97.1%）、現役進学率 91.6%（昨年度 95.6%）

連携・指定校推薦入試枠 546 名分のうち、受験者数 21 名

（総合進学コース在籍者の 10.9%）

※なお、昨年度と比較すると、連携・指定校推薦入試利用者（受験者）数は 11 名減少。

昨年度は関関同立・産近甲龍を含めた連携・指定校推薦入試枠 510 名分中、利用者（受験者）数は 32 名（総合進学コース在籍者の 17.7%）

総合進学コース在籍生徒のうち、

1 名（実数）が関西大学に一般入試で合格。

4 名（実数）が京都産業大学に公募制推薦・一般入試で合格。

5 名（実数）が近畿大学に公募制推薦・一般入試で合格。

2 名（実数）が甲南大学に公募制推薦入試で合格

7 名（実数）が龍谷大学に公募制推薦・一般入試で合格。

総合進学コース在籍生徒のうち、

5 名（実数）が関関同立に合格。（目標は 10 名以上）

27 名（実数）が産近甲龍に合格。（目標は 25 名以上）

関関同立の当初目標を達成できなかったのは、国公立大学と同様、やや高めの目標設定に対して、現状を上回る成果をあげる体制を構築できなかったからであると考えられる。

また、今後も上位大学においては難易度が高まる傾向は続くと思われるので、教科・学年を補佐する方法および体制を整える必要がある。

【進路指導方針】

入学当初より、進路指導LHRを通して、大学・学部・学科について調べ、できるだけ早い時期に目標設定を行うように指導している。総合進学コースの生徒にも、公募制推薦入試や一般入試を中心に大学進学をめざすように指導している。

生徒の将来とともに、上宮太子高等学校の将来を見据えた取り組みを今後も継続していきたい。

○次年度の取り組む内容（重点目標）

- ・安易な考えによるAO・指定校推薦入試からの脱却（総合進学全体の15%未満）
- ・模擬試験の有効活用
- ・家庭学習の充実

iv 入試関係

「共学」も周知され、女子比率も安定しつつある。「特進コース」においては男女比が1：1となった。一方で、「総合進学コース」における女子の専願受験者の比率は前年度よりはやや持ち直したが、特進コースに比し低い傾向がある。あらゆる角度から情報収集した上で原因を精査し、各部署間の連携を強化し、コースの特色を錬磨して、女子志願者にも一層魅力を発信することか出来るよう改善努力を重ねる。

今年度の入試は前年度に比べ合否ラインが高くなった。受験生の全体的な成績も上昇傾向にある。安定した学力をもつ受験生が増えてきていると感じた入試となった。志願者数は前年度入試比40名増（専願+18名・併願+22）の517名であったが、中3年齢人口は減少傾向にあるので、今後の広報活動を一層強めていかなければならない。

v 施設等整備関係

- ・高校校舎の芸術関係教室を普通教室に改修することで、教室数を増やし、中学生を合わせて収容する普通教室棟へと改修。併せて、芸術教室を中学校舎へ整備し、特別教室棟とした。
- ・グラウンドへのLED照明増設
- ・職員室、事務室、多目的教室等の照明LED化
- ・卒業記念品として大型ストーブを体育館に設置
- ・校舎棟前のスペースを全面駐車禁止とした。
- ・生徒昇降口に設置のAEDのリニューアル

vi 教務関係

学校評価

各部署の実施計画、授業アンケート及び生徒・保護者・教職員アンケートを中心に学校評価を行った。各部署については、4月までに今年度の年間計画と取り組む内容を、10月末までに中間評価、3月末までに年度末評価を学校評価委員会に提出し、その都度校長より指導助言を頂く形で実施した。授業アンケートについては、11月に実施し、その結果を各教員がリフレクションペーパーにまとめ、その後の授業に反映させるように行った。生徒・保護者・教職員アンケートを12月に実施した。3年前のアンケート結果を踏まえて取り組んだことがいかに評価されているかの確認と、今後取り組む内容の参考にする形で行った。前年度の総括についての学校関係者評価委員会を7月に実施した。

高大連携

○現状について

関西大学、近畿大学、龍谷大学、帝塚山学院大学、大阪樟蔭女子大学の5大学と高大連携協定を締結しており、それぞれの大学から特別推薦入試枠をいただいている。また、近畿大学経済学部にて、数学のリメディアル教育担当教員を1名派遣している。

○今後について

共学化に伴い、いくつかの大学から高大連携協定に関する話を頂戴している。しかし、生徒の希望進路等を確認しつつ、本校としても長期間にわたり、責任のある関係を保つことができる大学に絞って、今後の高大連携を考える。

教職員研修会

昨今の私学を取り巻く厳しい環境のなかで、私立学校として、法然上人の仏教精神に基づく『建学の精神』を掲げる上宮太子中学校・高等学校。そこで日々働く教職員が、「意識の改革レベルの向上」・「私学人としての現状認識と共通理解の醸成」・「他校の情報収集と対策の研究」等を目的に、機会を求めて共に研鑽を積むことを重ねている。

教職員一人ひとりが、そして、教職員総体として、「生徒・保護者のため」・「所属する職場組織のため」何が出来るか、どのように貢献できるかという視点で、基本的には、各学期1回、年度間に計3回、全教職員を対象に外部講師を招いて教職員研修を実施した。教職員の当事者意識の確立、研究心の錬磨、技量・モチベーション向上に繋げている。

<1学期・7月8日>

・テーマ「中学入試の現状と、選ばれている私学」

講師：エデュケーショナルネットワーク 藤川 亨氏

<2学期・12月7日>

・テーマ「学校の活性化」

(学校に新しい風を吹き込む)

講師：学校法人 梅光学院教育顧問 島田 清氏

<3 学期・3 月 1 日>

- ・当初の予定を変更して、理事長・学園長先生からのお言葉を、太子の全教職員で聞き、今後に向けた意思統一を図る。

特筆すべき行事

・【海外語学研修】

<オーストラリア語学研修> 3 月末実施 対象学年 中 2～高 2 希望制

語学力の向上および多文化理解を目的としたホームステイ型の研修。

実習期間は 2 週間で、生徒満足度 95%と非常に高く、その結果、リピート率も高い。

(平成 28 年度 参加者 36 名)

<イギリス語学研修 (ACE プログラム) >7 月中旬実施 対象学年中 3～高 3 資格あり
国際感覚の習得、プレゼンテーションスキル・チームワークやリーダーシップスキルの育成の向上を目的としたパブリックスクールでの寮滞在型の研修。参加資格は英検 2 級 1 次試験合格以上。クリアした生徒は、学園から一部奨励金を受け、学園・学校の代表としての誇りをもって、研修に参加する。参加前には 10 時間以上のネイティブ講習会等を実施する。(平成 28 年度 テロの問題により中止)

<イングリッシュワークショップ>

特別授業期間を利用し、外部講師を活用して高校 1・2 年生の各々の学年で全員を対象に英会話講習会を実施している。少人数のグループにネイティブの講師 1 名が付く。

4 コマ (1 コマ 45 分) を講師がローテーションをすることにより、各コマの雰囲気が変わり充実した講習会となっている。また、中学 1・2 年生の各々の学年で全員を対象に英会話講習に特化した合宿を実施した。

・【聖徳書道展】

平成 28 年度で第 9 回の実施となる上宮太子主催の文化活動である。伝統文化の発展と、聖徳太子ゆかりの地にある学校として、“以和為貴”の精神を理解・継承し、「和」の心を広め、育成することを目的として開催している。例年、総本山知恩院、太子町・太子町教育委員会、毎日新聞社の後援をいただいて、平成 28 年度は、小中高生及び一般の方々から 5,200 点を越える応募作品を得た。10 月 9 日 (日)・10 日 (月・祝) 両日に、上宮太子高等学校を会場として、入賞・入選作品を掲示、他の作品も展示し、第 2 日には入賞作品の表彰式も実施した。毎年、家族連れ等、多くの来校者を迎え、結果、学園・学校を広く知らしめる契機としても意義ある一大行事となっている。

vii 課外活動関係

① 課外活動のあり方について

運動部：13、文化部：11、同好会：1 (平成28年3月末現在)

中高で7割近くの生徒がクラブに所属し、それぞれのクラブの特色に応じて活動している。各クラブにおいて目標を達成する上の過程を大切にし、礼儀や挨拶などを含めた人間教育に重点を置いた指導をめざし、学校全体の活性化をねらいとしている。

② 新規クラブ発足等の動きについて

平成27年 4月 男子硬式テニス部・女子硬式テニス部が、硬式テニス部から分離独立

平成27年 4月 囲碁将棋部 休部

平成28年 4月 吹奏楽・オーケストラ部が吹奏楽部に統合・名称変更

③ 部活動の主な成績

書道部 高野山競書大会 内閣総理大臣賞 受賞 (高校3年 平野 響)

硬式野球部 秋季近畿地区高等学校野球大会大阪府予選 優勝

秋季近畿地区高校野球大会 出場

陸上競技部 大阪高校秋季陸上競技大会 4×400mリレー 男子第4地区 3位

(翌春の第16回阪名和高等学校対抗陸上選手権へ進出)

卓球部 南河内地区総合体育大会(卓球の部) 優勝 (中学2年 神谷 健太)

viii 防災対策関係

大規模災害が発生した場合は、帰宅困難者によるさらなる混乱を防ぐため、生徒をすぐには帰宅させず、学校内で待機させるという考え方が主流になっている。そのため、学校側は、生徒が最低2日間、学校内で寝泊まりできる備えが必要となる。

また、学校の復旧だけでなく、地域の帰宅困難者支援、一時滞在者の受け入れ、避難所への物資の提供など、学校にできる被災者支援を行うことが、本校の信用を高め、地域貢献に繋がる。

(備蓄品内容 一人分)

朝食パン2日分 昼・夜 アルファ米2日分 飲料水500mL 6本

ミルクビスケット・クラッカー 保存用水2ℓ 900本

レスキューシート(救助・救命KIT)、高校校舎 1セット・中学校舎 1セット

ix その他

生徒会活動の一環として、上宮祭における献血活動に力を入れている。日赤より講師を招き、全生徒に対して献血に関する事前学習を行い、上宮祭当日まで呼びかけや、研究発表を通してたくさんの生徒、来校者に協力していただいている。

4. 上宮中学校

i 広報関係

○学校説明会

入学希望者を対象に9月から月に一度、11月まで説明会を実施している。説明会のスタイルは高校とほぼ変わらないが、参加者数が多くても100組ほどなので、少しスタイルを変えてもいいかなと考えている。あと体験学習会は、一昨年から体験学習会を6月、プレテストを11月に実施している。6月に実施しているのは塾に通っている生徒のみならず、私立中学を考えてない保護者・生徒に考えていただくという意味合いもある。興味関心を持った生徒が塾の夏の夏期講習に参加し、11月のプレテストを受験し、最終的に上宮中学校受験という流れができればと思う。しかし、上宮中学校と上宮太子中学校との統合で、上宮学園中学校の開校で6月の体験学習会の実施が出来なかった。出来ることならば8月下旬から10月上旬で実施できればと思う。

○塾対象説明会

高校と内容は同じ

○私学展

高校と内容は同じ

○特筆すべき点

特に留意すべき点は近畿圏にある私立中学校の入試レベルが二極化しており、全体的なレベルが下がっているという事実と受験の可能性のある児童数が激減しているにもかかわらず、中学生の募集をする学校数はさほど変化がないというこの2点である。

上宮中学校の立ち位置はレベル的に言えば特進で偏差値50ほど、アップコースで45と言っているが、偏差値が50あるならば、明星・清風・大阪女学院に十分合格できる(40台でも合格する可能性は高くなっている)。その結果、大阪府内の私立中学校の3分の1の学校が定員を満たせなくなった。現実を捉え、このような状況の中で中学入試をアピールするためには、中学校の内部の教務力や何らかの柱(上宮にしかない行事を再整備してアピール)を新たに構築する必要があると思われる。またそれらを前面に押し出すことが生徒募集につながるわけであるが、もし何らかの柱を立てることができない場合、太子中学校も含め学園の中学校は存続すら危ぶまれると思われる。

○大阪私立中学校フェア

6月26日(日)大阪私立中学校高等学校連合会主催の大阪私立中学校フェア(大阪国際会議場)に参加した。個別進学相談、制服展示、パンフレットコーナーで出展し、個別相談数は32組であった。

ii 入試関係

上宮中学校はレベル的に言えば特進で偏差値 50、アップコースで 45 であるが、大阪の中学入試において、「初日午前入試」の偏差値帯別志願者数の分析では、本校が属する偏差値帯では前年度比 95.9%となっている。本校では昨年度 1 次入試出願者 90 名に対し、29 年度 1 次入試出願者は 75 名であり、前年度比 83%となった。入学者も昨年度 1 次入学者 75 名に対し、29 年度 1 次入学者は 60 名であり、前年度比 80%となった。2 次出願者は昨年度 150 名、入学者 13 名に対し、29 年度 2 次A出願者は 132 名、入学者 17 名となっている。また、本年度は 2 次B入試を実施し、28 名が出願し、入学者は 1 名となっている。その結果、全入学者は昨年より 8 名減の 78 名となり、残念ながら、平成 29 年度は 2 クラス編制となった。共学化以来、心配している女子入学者については、29 年度は 12 名で、28 年度より 10 名も減となり、女子生徒の割合は 28 年度の 26%から 29 年度は 15%となった。逆に男子生徒の入学者は、28 年度より 2 名多い。

一次入試の出願者が平成 27 年度より毎年連続して 20%減となっていることが、入学者数に大きく響いている。小学生人口の減少に伴い、大阪の多くの私立中学は入学者を減らしているが、本校の平成 29 年度入試は女子生徒の減少分が生徒減に直結している。要因の一つとして、5 号館 1 階、2 階の教室環境が、女子生徒の保護者に対して影響している可能性もある。

平成 30 年度は太子中学校と統合される上宮学園中学校として、初の入試を迎えるが、入試方式や日程に関し、早急に検討する状況に置かれている。

iii 教務関係

(1) 学校評価の総括から () 内は自己評価

- ① 日々の行事運営 (B)
- ② 教務係との業務の連携、運営 (A)
- ③ 教員間の情報の共有・連携 (B)
- ④ 中高教務の連携 (C)
- ⑤ 会議や連絡会について (B)
- ⑥ 教務会の円滑な進行について (A)
- ⑦ コース再編の目標の明確化、中学校での取り組みの具体化 (B)
- ⑧ 六カ年を見据えた教育の充実 (B)
- ⑨ 校外学習及び総合学習の充実と積極的な取り組み (A)
- ⑩ 中学入試の実施と諸問題の検討 (B)
- ⑪ 保護者会との協力 (A)
- ⑫ 部活動の充実に繋がる取り組み (B)

(総括)

以上の目標については、概ね当初の予定通り遂行できたが、④が不十分であった。平成 28 年度中学 3 年生のうち 3 名が高校進学時に英数コースに進学することになったが、それらの審査や高校のコース間との情報交換を今後は厳密にしていける必要がある。

今後、最大の課題となるのは、上宮中学校と上宮太子中学校が統合されて立ち上がる上宮学園中学校の特色作りである。⑦～⑩の項目については従来と異なる位置づけでその対策が必要となる。また新たな行事を取り入れる必要もある。特に⑩については、厳しい入試状況から脱却するためにも、教務としても入試対策部と共同した取り組みが必要となる。体験学習会やプレテストについても多くの児童を集める工夫が求められる。

(2) 勉強合宿

① 中1が5月に行う勉強合宿(1泊2日)は平成24年度から実施しているが、小学校から中学に入学して早々に定期考査に向けての学習方法を示すことは意義があり、今後も継続予定である。

② 中1、中2の特進コースが行う夏期勉強合宿(2泊3日)は7年目となった。自学自習が早くから定着することと、特進コースとして将来の進学に自覚を持たせる目的がある。

③ 中3勉強合宿(2泊3日)は、2月に実施した。上宮高校入試問題も合宿2日目に実施したが、あまりよい結果を出せなかった。その動機付けをどのようにするのが今後の課題である。

(3) 中3修学旅行

平成28年度は熊本地震により、実施方面を東京、栃木方面へ変更した。東京での海外留学生との交流、キャリア教育の一環としての「フジテレビのお仕事」、横浜での判別自主研修、さらに栃木県大田原市での農家泊、及び日光見学と多彩なプログラムをこなした。

変更初年度であったが、実施後のアンケート調査においては生徒には好評であり、教員の反省会でも、ほぼ目標を達成できたという意見が多かった。

(4) スキー実習

中1、中2は全員志賀高原スキー場にて3泊4日で実施した。本年度は心配されたインフルエンザ等で途中から離団する生徒がいなかった。雪質もよく、宿舎でインストラクターの話を聞けるなど、事後のアンケート結果においても生徒の満足度は高かった。

(5) 英語コミュニケーション講座

平成27年度までは、各学期末に全学年対象希望制の行事として、ベルリッツからネイティブを招いて実施していたが、28年度は中1生のネイティブ授業が始まったことから希望者が減少し、中2、中3においても希望者が減少したことから開講できなかった。

(6) 中3生対象のオーストラリア語学研修

3月末から4月初旬にかけての12日間。ケアンズにおけるホームステイを中心に、午前中は語学学校、午後はアクティビティからなる研修で、参加者からは好評を得ている。

(7) 中3生対象のイングリッシュキャンプ

平成27年度からイングリッシュキャンプと勉強合宿を同時に行うプランで実行しており、平成29年度も同じ形式で実行した。人数的にも比較的多くの生徒が参加し、充実した行事となった。

上記以外の行事

- ① 中1：5月に冒険教育（日帰り）を実施
- ② 中2：8月に琵琶湖合宿（1泊2日）を実施
思春期教室（バルナバ病院で実施予定）は、インフルエンザが学年内に蔓延したことから28年度は中止した。
- ③ 各学年主導の校外学習
1年：司馬遼太郎記念館、奈良方面散策
2年：上町台地において班別自主研修、文化祭で発表

iv 課外活動関係

◎柔道部

近畿大会 個人・団体出場
全国大会 中3 斎藤 優勝

◎剣道部

近畿大会 個人：中3 内城 毅 3位
全国大会 1回戦敗退

◎フェンシング部

全国大会出場 個人 中3 西脇裕馬 中2 荻田恒靖

◎ソフトテニス部

全国大会 団体3位
個人 赤川・山中 2位

◎ソフトボール部

大阪大会2位
全日本中学生男女ソフトボール大会出場

◎水泳部

全国大会出場 23位

5. 上宮太子中学校

i 広報関係

学校説明会

第1回体験学習会	5/28	5/29	参加者数	84組
第1回入試説明会	7/16		参加者数	28組 48名
第2回入試説明会	9/25		参加者数	24組 45名
第3回入試説明会	10/22		参加者数	24組 47名
プレテスト会	11/13		参加者数	228組
直前対策説明会	11/26		参加者数	52組 108名

ii 入試関係

少子化現象及び私立中学受験者の激減の煽りを受け、生徒募集には苦勞をしている。しかしながら、今年度は各説明会とも昨年度よりも増加した。今年度の入試において、先の大学入試改革で求められる学力（思考力・表現力・判断力）を中学入試段階で問うべく「適性検査型」の入試を導入した。その結果、プレテスト、受験者数ともに大幅に増加した。また、昨年度より実施した「自己アピール型」の入試においても昨年を上回る結果となった。入学段階の学力も向上しており、6年後には一層の大学進学成果を出すことが期待できる。平成30年度より上宮太子中学校は上宮中学校と統合し、「上宮学園中学校」として募集を行う。両校の力を結集した学校である。広報活動にもより一層力を入れていきたい。

iii 教務関係

①学校評価

上宮太子高等学校と同内容

②高大連携

上宮太子高等学校と同内容

③ガンバリシステムの導入

- ・学力のみならず、総合的な力を持った生徒の育成
- ・挑戦と達成の促進
- ・一人ひとりの生徒のよさや可能性を伸長
- ・一人ひとりの生徒の学習意欲の喚起

【ガンバリシステムの評価項目】

大項目	学業		自己啓発		生活状況			資格		課外活動			
	模擬試験	ガンバリスト	図書室利用状況	自己啓発	出欠状況	生活態度	家事・自立	漢字検定	英語検定	生徒会活動	クラブ活動	ボランティア	コンクール

④教職員研修会

上宮太子高等学校と同内容

⑤特筆すべき行事

海外語学研修・聖徳書道展については上宮太子高等学校と同内容

学習強化合宿

中1学年 7月下旬（終業式後）に2泊3日の日程で合宿を実施した。（京都方面）

法然上人が修業された比叡山黒谷青龍寺を参拝（本年度は悪天候により中止）、京都市内の宿所に入り一枚起請文暗誦及び英数国の学習に取り組み、合宿後の家庭学習の習慣も身に付けさせた。

中2学年 7月下旬（終業式後）に2泊3日の日程で合宿を実施した。（滋賀方面）

英語を中心に学習強化・家庭学習習慣の定着を図る指導を実施した。
また、英語によるプレゼンテーション会も実施した。

中3学年 7月下旬（終業式後）に3泊4日の日程で合宿を実施した。（奈良方面）

英数国を中心に高校での学習を念頭に置いた合宿独自の授業を展開した。

その他

早朝テスト 朝礼時に実施することにより、授業への姿勢を整えさせ、学習習慣の定着を図る。

外部模試 全国的なレベルでの成績の比較

特別考査 日頃の学習の成果を見極め、校内での実力を確認する。

漢字検定試験 中学卒業までに2級合格を目標。

英語検定試験 中学卒業までに3級合格を目標。

英検講習 学年卒を越えた級別講習を、通常の補習・講習に加えて、検定日前に集中実施。

授業内小テスト・個別指導・添削指導など教科の特性を加味した指導を実施。

職員室前に質問コーナーを設け、生徒がいつでも質問しやすい環境づくりを設定。

学校行事

普段の教室での“知性を磨く”学習とは違った形で学び、違った環境の中で「感激・感動」を味わって、“感性を磨く”学習としての学校行事。普段、「吸収」した知識を、いかにうまく「発揮」していくかに繋げたい。“交流”“体験”“手づくり”を重視した修学旅行・文化祭（本校では上宮祭）・体育大会の他、独自の行事も実施。

祖山参拝	浄土宗の総本山である知恩院へ新入生が入学の報告
御忌式	校祖法然上人のご命日に当たる毎月25日の第1限に学校長より法話
校祖誕生会	校祖法然上人のお誕生の日に式典と講話
正当御忌式	校祖法然上人の祥月命日に式典と講話
新入生オリエンテーション合宿	1泊2日 京都大本山百万遍知恩寺 仲間づくりと宗教体験を目標とする。
修学旅行	(九州方面) 長崎大学での国際交流 長崎県五島列島の小値賀島での民泊体験
球技大会	生徒会起案で実施 生徒の自主性を養う。
体育大会	学年縦割りの色別対抗 学年枠を越えて先輩・後輩の関係性の確立。 上宮祭研究発表など多彩なクラス参加、または文化部の催し物を実施。 夏期学習強化合宿 中1・中2は2泊3日、中3は3泊4日で実施
芸術鑑賞	音楽、古典芸能、ミュージカル等「ホンモノ」の芸術に触れ、感性を磨くことを目的とする。
校外学習（二上山・葛城山・金剛山登山）	3学年縦割り（体育大会時の色別チーム）で協力して頂上をめざし、最後まであきらめない忍耐力と協調性を高める。 3年間で三山に挑戦する。 (本年は二上山登山の予定であったが、雨天により中止)

iv 課外活動関係

上宮太子高等学校と同内容

v その他

特記事項なし